

総務教育常任委員会資料

(平成23年6月21日)

[件 名]

- ・ ゲゲゲの鳥取県応援団による復興支援の実施結果について
【東京本部】・・・1
- ・ 首都圏における販路開拓、観光等のPRについて
【東京本部】・・・2
- ・ 関西圏の企業・経済団体との連携について
【関西本部】・・・3
- ・ 第1回鳥取県産品展示商談会の開催結果について
【関西本部】・・・4
- ・ 緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について
【名古屋本部】・・・5
- ・ ガイナーレ鳥取と連携した人権啓発事業について
【人権・同和対策課】・・・6
- ・ 平成23年度鳥取県部落解放月間について
【人権・同和対策課】・・・7

総 務 部

ゲゲゲの鳥取県応援団による復興支援の実施結果について

平成23年6月21日
東京本部

このたびの東日本大震災で大きな被害を受けられた地域の方々の復興を支援するため、被災地の避難所に鳥取県のご当地グルメや郷土料理の炊き出し提供を行う応援団を派遣した。

(1) 実施体制

主催：鳥取県（市場開拓局、東京本部）、琴浦町
協力：NPO法人琴浦グルメストリートプロジェクト

(2) 炊き出しを行った応援地

宮城県石巻市 2か所の避難所（渡波（わたのは）小学校、蛇田（へびた）小学校）

(3) 日程等 行程：6月1日（水）～6月5日（日）4泊5日（現地2日間）

時期	場所	提供食数
6月3日（金）	渡波小学校	約1,100食
6月4日（土）	蛇田小学校	約400食

(4) 内容

- ・ご当地グルメの提供：あごカツカレーの炊き出し
- ・琴浦町内の特産品の提供：乳製品（牛乳）、豚汁等
- ・琴浦町長から各避難所へ支援物資（琴浦町産の食品）を贈呈
- ・「ゲゲゲの鬼太郎」との交流

(5) 経費 2,000千円（予備費対応）

(6) 炊き出し時の様子

- ・炊き出し開始前より、長蛇の列ができ、皆さん大変期待していただいていた。
- ・あごカツ、カレーとも美味しいと口々に言っていた。特に、あごカツは石巻の方には未知の食感・味でとてもカレーに合うとのこと。（三陸ではあまり飛び魚は水揚げされず、当然、練り物も無い）あごカツカレーは当地に持ってきてもきっとよく売れると言われた方もいた。
- ・カレーの感想を聞いた方々より、口々に感謝の言葉を頂戴した。
- ・白バラ牛乳も人気で、近所に配るからといって20パックも持ち帰った方もいた。（牛乳が品薄とのこと）



首都圏における販路開拓、観光等のPRについて

平成23年6月21日

東京本部

1 イトーヨーカドー大宮店 鳥取フェア

首都圏での鳥取県産品の販路開拓及び観光情報の発信のため、(社)鳥取県観光連盟、(社)鳥取県物産協会と連携し、イトーヨーカドー大宮店で物産フェアとPRイベントを実施した。

(1) 場所

イトーヨーカドー大宮店 (埼玉県さいたま市大宮区吉敷町)

(2) 期間

物産フェア：平成23年6月8日(水)から6月13日(月)

PRイベント：6月11日(土)、12日(日)

(3) 内容

- ・ 物産フェア (水産加工品、菓子類を中心に27社が出店)
- ・ ステージイベント (ゲゲゲの鬼太郎、ねずみ男の着ぐるみとのクイズ大会)、ゲームラリー、観光DVD、ポスター、ノボリ等による観光PR
- ・ 鳥取牛骨ラーメン応援団による牛骨ラーメンの特別販売
- ・ JA鳥取いなばによるらっきょうの漬け方講習会 (6月11日(土))

(4) その他

今回のフェアがきっかけになり、7月1日(金)から8月31日(水)の2ヶ月間、パレスホテル大宮のホテル内レストランで鳥取県食材を使用した特別メニューを提供する鳥取フェアの開催が決定した。

【参考】

イトーヨーカドー大宮店 (さいたま市大宮区吉敷町 (JR さいたま新都心駅東口すぐ))

- ・ 店舗面積 (5,000坪) フロア数 (地上三階・地下一階) 駐車台数 (約900台)
- ・ レジ客数 (平日6,500人・週末10,000人) 売上規模 (9.5億円 (2009年実績・テナント含む))

2 羽田空港での観光PR

羽田空港利用者に対し、鳥取便・米子便の利用促進及び観光PRイベントを実施した。

(1) 場所 羽田空港第2旅客ターミナル (出発ロビー)

(2) 期間 平成23年6月17日(金)から6月18日(土)

(3) 内容 PRブースの設置、ゲゲゲの鬼太郎、ねずみ男の着ぐるみによるPR、パネル、ポスターによる観光PR、パンフレットの配布。

関西圏の企業・経済団体との連携について

平成23年6月21日
関 西 本 部

昨年度関西広域連合が発足し、鳥取県もその一員となり、名実ともに関西の一員として経済交流を活発化するよう活動を展開しているところであるが、関西圏の企業・経済団体との一層の連携強化を図るため、次の事業を実施する。

1 大和ハウス工業株式会社との提案型商談会（昨年度に続き2回目）

昨年度、大和ハウス工業株式会社から提示された技術や製品ニーズに対して、高度な技術や製品等を有する鳥取県の中小企業、研究機関、大学等とのマッチングを初実施したところ、商談も成立し提案型で実施したことが非常に好評であったため、今年度も2回目の提案型商談会を実施する。

- ・募集期間 平成23年5月20日（金）から6月3日（金）
- ・商談期間 平成23年7月6日（水）、7日（木）：個別商談会
商談する県内企業の商品、技術を会場内に展示し、商談テーブルで個別商談を実施
- ・参加社数 約40社（予定）
- ・主 催 財団法人鳥取県産業振興機構、鳥取県関西本部
- ・場 所 米子市内
- ・来 場 者 大和ハウス工業の各事業・研究開発部門責任者及び担当者等

2 関西圏経済団体の鳥取県内視察会

関西の経済団体の会員企業等に対して、県内企業、鳥取自動車道、境港港湾施設等を視察するとともに県内の経済団体と意見交換をして頂き、経済交流や企業立地等の促進を図る。

(1) 神戸商工会議所女性経営者倶楽部

（神戸商工会議所会員の女性経営者等で構成）

○視察日 7月27日（水）（県西部）

○参加予定数 30人

○内容等（予定）

- ・県内の女性経営者等との意見交換
- ・境港港湾施設、企業等の視察

(2) 大阪商工会議所会頭（京阪電気鉄道（株）佐藤茂雄代表取締役CEO・取締役会議長）

○視察日 8月5日（金）（県東部）

○内容等（予定）

- ・県知事との会談
- ・関西からの進出企業・研究機関等の視察

(3) テクノステージ和泉まちづくり協議会

（大阪府和泉市の産業団地「テクノステージ和泉」の立地企業等で構成）

○視察日 9月9日（金）（県東部）

○参加予定数 30人

○内容等（予定）

- ・鳥取テクノヒルズ（鳥取市津ノ井周辺の立地企業で構成）会員との意見交換
- ・鳥取県産業技術センター・鳥取テクノヒルズ会員企業・工業団地の視察

第1回鳥取県産品展示商談会の開催結果について

平成23年6月21日
関西本部

関西本部では、関西での販路拡大機会を希望する県内事業者多数の要望にお応えし、関西において年間を通じた定期的な商談会を初実施した。

第1回目として、次のとおり開催し、その結果は以下のとおりです。

(1) 商談会の概要

日時 平成23年5月26日(木) 午前11時から午後4時まで

場所 鳥取県関西本部 交流室 (大阪市北区梅田1-1-3-2200 大阪駅前第3ビル22階)

出展事業者 加工食品(農産、水産、畜産)を中心とする県内事業者21社

(2) 来場バイヤー

・66社(134名)のバイヤー(百貨店、スーパー、食品問屋等)が来場。

(3) アンケート結果

◇出展業者アンケート(21社)

・出展事業者がバイヤーと名刺交換した数は、平均27社(最大60社、最小4社)。

〈出展業者の感想〉

- ・プロモーション等に行く際、同行していただいたり、可能な範囲で、情報・アドバイスをいただくと大変助かります。
- ・新規参入にはすばらしい企画だと思う
- ・スーパー関係、通販関係などターゲットを絞った商談会を企画して欲しい。

◇バイヤーアンケート(53社88名)

- ・出展事業者に関心を示したバイヤーは、1出展事業者あたり17社(最大29社、最小7社)。
- ・関心を持った商品では、梨サイダーなどの梨関連商品、サバ鮭などの水産加工品が上位で、鳥取県を連想する商品の注目度が高い。
- ・今後の商談会で希望する分野は、水産加工品、農産加工品、ふるさと認証商品の順。
- ・商談会の感想では、「役に立った」68名、「参考にならなかった」2名。

〈バイヤーの感想〉

- ・小規模でも地方特産色の強い商品が出店してありよかった。
- ・もっと市場よりのパッケージ、発想、売り方を工夫した商品がよい。

(4) 商談後の状況(6月上旬) (※関西本部が現時点で確認している情報)

- ・1社の商品が商談成立(関西圏スーパーの惣菜コーナーに採用)。
- ・各出展業者がバイヤーにサンプル、見積り書を送付して商談中。

〈商談状況(抜粋)〉

関西バイヤー	出展業者	商品	状況
問屋A	串惣	焼鳥	関西圏スーパーに採用
問屋B	彩、きらめきプラザ八頭、こだわり物産協同組合	生チョコいちじく、柿ドレッシング、アゴだし	商談中
問屋C	GMCグループ、赤本商店、彩、きらめきプラザ八頭、串惣	梨サイダー、ねばりっこ芋カレー、生チョコいちじく、ラスク、焼鳥	商談中
スーパーA	豊田アストリア、泊綜合食品、はーと食品鳥取、アグリ琴浦、サンドリップ、	スパイシーカレー、砂丘らっきょう、アゴせんべい、ブルーベリー関連商品	6月下旬の鳥取フェアに採用
スーパーB	あぶい蒲鉾、白雪食品、きらめきプラザ八頭、こだわり物産協同組合	おにぎりかまぼこ、瓜奈良漬、ラスク、長いもかまぼこ等	商談中

緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について

平成23年6月21日
名古屋本部

1 緊急雇用創出事業の県事業予備枠を活用して追加実施することとした事業費

(6月7日までに追加実施を決定した事業) 4,967千円

2 追加実施事業の内訳

(単位：千円)

事業名	H23年度における雇用創出人数	H23年度執行予定額	事業概要
中京圏「食のみやこ」発信事業	1名	4,967	中京圏における本県産品の案内、販売を鳥取県物産協会に委託し、中京圏の消費者に「食のみやこ鳥取県」をPRする。
計	1名	4,967	

※この事業は「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用して実施する事業です。

ガイナレ鳥取と連携した人権啓発事業について

平成23年6月21日

人権・同和対策課

J2サッカークラブ「ガイナレ鳥取」と連携して行うブラインドサッカーの体験を通じて、視覚障がい者への理解を深めていただくなど、ガイナレ鳥取の青少年や地域社会への情報発信力を活用して、県民の皆様に様々な人権問題への理解を深めていただく取組を行います。

1 Jリーグの試合を活用した人権啓発活動

- ・ 日 時 7月24日（日）徳島ヴォルティス戦（午後6時試合開始）
- ・ 場 所 とりぎんバードスタジアム（鳥取市蔵田）
- ・ 主 催 鳥取県
- ・ 共 催 鳥取県人権啓発活動ネットワーク協議会（鳥取地方法務局、鳥取県人権擁護委員連合会（公社）鳥取県人権文化センター、（社福）鳥取県社会福祉協議会）

（1）試合前にブラインド・サッカースクールを開催

視覚障がい者の行うブラインドサッカーを体験する。今回のスクールでは参加者が未体験と想定されるため、アイマスクを着用し音の鳴るボールを蹴るなど、ガイナレの選手とともに、ブラインドサッカーの第一段階を体験する。

ア 時 間 午後3時30分から午後4時20分まで（予定）

イ 場 所 とりぎんバードスタジアム

ウ 参加者 小学生とその親、50組（100人）（予定）

〈参考〉

ブラインドサッカーについて

ブラインドサッカー（視覚障がい者5人制サッカー）とは、視覚に障がいを持った選手がプレーできるように考案されたサッカーである。1チームはゴールキーパー（晴眼者）を含む5人のプレーヤーで構成される。チームにはプレーヤーの他に、フィールドの外にガイドを置き、プレーヤーに方向や距離などを伝える。また、ボールはプレーヤーに位置が分かるよう、音が鳴るようになっている。

（2）試合会場での人権啓発

ア 人権啓発用カードの配布

- ・ 当日の試合観戦入場者到人権啓発用カード（名刺サイズで啓発メッセージを印刷）を配布する。

イ その他の啓発活動

- ・ スタジアム東側（県道側）駐車場にイベントブースを設置し、着ぐるみや啓発パネル等でPRする。

2 その他のガイナレと連携した人権啓発活動

（1）ガイナレの選手を起用した人権啓発ポスターを作成する。

（2）人権週間（12月4日～10日）中に選手が参加する街頭啓発イベントを開催する。

平成23年度鳥取県部落解放月間について

平成23年6月21日
人権・同和対策課

同和問題の解決は、国及び地方公共団体の責務であると同時に国民的な課題です。
本県では、昭和45年度から県独自の取組みとして部落解放月間を設けており、この期間中、同和問題への県民の理解と認識を深めるため、県や市町村、関係団体等が連携して、啓発活動を集中的に実施します。

記

- 1 期 間 7月10日(日)から8月9日(火)まで
- 2 主 催 鳥取県、鳥取県教育委員会、市町村、市町村教育委員会
- 3 協 賛 鳥取地方法務局、公益社団法人鳥取県人権文化センター、鳥取県人権教育推進協議会、鳥取県隣保館連絡協議会
- 4 テ ー マ 「みんなの願い 差別のない社会 人権尊重の社会」
- 5 啓発活動
 - (1) 広報
県政だよりや市町村広報紙、ポスター・リーフレット、街頭啓発活動などで部落解放月間の趣旨及び期間中の開催事業等の周知を図る。
 - (2) 講演会等開催
部落解放月間を中心に、県や市町村等が、県民を対象とする講演会やシンポジウムなどを開催する。
 - (3) 県の実施事業
 - ア 街頭啓発活動
 - 日 時 7月9日(土) 11:30～12:30
 - 場 所 イオン鳥取北店、倉吉パープルタウン、イオン日吉津店
 - 参加団体 鳥取県、協力市町村、関係団体等
 - 内 容 部落解放月間のテーマ等を記載した啓発グッズを配布し、同和問題の早期解決を訴える。
 - イ 人権問題講演会
 - 日 時 7月14日(木) 13:50～15:30
 - 場 所 とりぎん文化会館 小ホール(鳥取市尚徳町101-5)
 - 内 容 「土地差別調査事件と私たちの課題」
講 師：奥 田 均 さん(近畿大学人権問題研究所教授)
 - 主 催 鳥取県

<参考>

同和問題に係る差別事象

県内で発生した差別事象は、過去3年間では年平均で7件、県に報告されている。

【最近の事例】

- ・公衆トイレ等への差別落書き
- ・役場や福祉施設などへの電話等での差別発言
- ・電話による同和地区の問い合わせ